

学校だより

Vol. 89

2018

WINTER

平成30年12月発行 鳥羽商船高等専門学校

広報・公開委員会「広報誌専門部会」

三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



Imagine Cup 2018 世界大会



ロボコン



海学祭



商船学科卒業式

- 校長式辞
- 就職・進学状況
- 皇太子殿下行啓・Imagine Cup 2018 世界大会
- 学生の活躍
- 新学科の新設
- 国際交流
- 実習・研修
- 学校通信

校長式辞

平成三十年度商船学科卒業式

専攻科（海事システム学専攻）修了式

校長 林 祐司

本日ここに、ご来賓ならびに保護者の皆様のご出席のもと、平成三十年度、鳥羽商船高等専門学校「商船学科卒業証書授与式」ならびに専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」をとり行い、わが国の産業を担っていく、新鮮で有能な人材を社会に送り出すことができますことは、本校教職員・在校生一同にとりまして、この上ない喜びです。

本日、商船学科を卒業された航海コース十五名、機関コース二十三名の皆さんは、五年六月の高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された四名の皆さんは、本科を卒業後、この二年間でさらに高度な専門知識を修得され、大学改革支援・学位授与機構の審査にも合格し、学士の称号が授与されました。卒業生・修了生の皆さんの今日に至るまでの努力を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者・ご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは、本当の意味で、これから海図のない人生の遠洋航海に出られるわけですが、UW旗のほかに、大切なこと三つについて紹介いたします。

大切なこと一 「命」

命を大切に、しっかりと生きるためには、観察力と注意力を十分に働かせて正しい情報収集と的確な判断が必要です。情報過多や誤った情報に惑わされて烏合の衆にならず、偏った情報に軽挙妄動せず、自身の考えや信念に従って、「命を守る」を第一として生き抜いてください。自分の命、周りの人たちの命を守ってください。今まで受身の強さを、能動的な強さとして身につけて、粘り強く生き続けることです。

大切なこと二 「仕事」

一旦決めた仕事は、簡単に諦めてはいけません。仕事の状況や人間関係

は、日々変化しますので、二、三年の短期間の判断だけで簡単に諦めないことが大切です。短くも五年半以上は続けてください。この五年半は皆さんが鳥羽の地に居られた時間です。そこまで勤めれば、将来の人生で使える宝物を手に入れているはずですよ。

大切なこと三

「直接、顔を見て話す」

以上の二つの大切なことを実現するためには、「顔を見てのコミュニケーション」が必須です。相手の微妙な表情とか態度を見逃さずに、気配りしながら直接話をしてください。人となりの付き合ひの基本です。そして、すべての成功の「入口」です。

以上、大切なこと三つを紹介しました。

これから皆さんの進む道は、世界に広がっています。しかし、将来それは再び交わることがあるはずです。そのときに、鳥羽商船高専の卒業生・修了生として自信に満ちた出会いをしていただけることを切に願っています。友達を大切に、自分の命、周りの人の命を大切に、今後取り組むべき仕事で社会に貢献されることを祈念いたします。

自力で切開く人生は、たった今、始まりました。恐れずに弛まずに、希望という輝く星に向けて針路をセツトしてください。人生の御安航を切にお祈りして、式辞いたします。

「ごきげんよう！」

平成三十年九月二十四日



商船学科航海コースの就職・進学状況について



商船学科航海コース主任

片岡 高志

商船学科航海コースの平成30年9月卒業生は15名です。このうち就職が12名、進学が3名となりました。海運会社からの求人自体は、昨年と比較して外航内航ともほぼ同じです。内訳は以下のとおりです。

就職は全員が海上就職で、日本海洋事業、旭タンカー、ファーストマリンスervice、フェリーさんふらわあ、オーシャントランス、田淵海運、西部タンカー、上野トランステック、中央海運、東京汽船、昭陽汽船、三洋海事に各1名が採用されました。進学は推薦による大学編入で、東京海洋大学海洋工学部に1名、神戸大学海事科学部に2名が進学しました。

また、専攻科海事システム学修了生は4名で、そのうち航海コース出身者2名は、西部タンカー、商船三井フェリーに就職しました。

本科、専攻科とも就職者全員が海上就職を果たしており、航海コースの海上就職率は近年ほぼ100%となっております。最近の傾向として、調査研究船や大型フェリーを希望する学生が多い気がします。在校生のみなさんも先輩に続くよう、より一層勉学に励んでください。初志貫徹で頑張ってくださいと思います。

商船学科機関コースの就職・進学状況について



商船学科機関コース主任

伊藤 友仁

平成30年9月の機関コース卒業生は22名でした。そのうち、海上就職が12名、陸上就職が7名でした。海上就職は、日本郵船1名、川崎汽船1名、商船三井オーシャンエクスパート1名、商船三井フェリー1名、フェリーさんふらわあ1名、鹿児島船舶1名、コスモ海運1名、佐渡汽船シブマネジメント1名、イイノガストランスポート1名、伊勢湾マリンスervice1名、昭陽汽船1名、ウイングマリタイムサービス1名です。また、陸上就職は、ダイキン工業1名、ジャパマンユニテッド1名、旭メンテックス1名、帝国機械1名、マキタ1名、家業ほか2名でした。東京海洋大学ほかへの進学予定者は2名です。海上就職者のうち何名かが海技士国家試験の2級または1級筆記に合格しており、その合格者ほど希望の船会社に採用される傾向が顕著でした。

商船学科は外航船員を養成するための船舶職員養成施設で、卒業すると3級海技士筆記試験免除となります（卒業直後に3級海技士免状を取得できます）。海上就職を希望する学生は5年次、春の就活開始時期までに2級以上の海技士筆記試験に合格すると希望を叶える上で大変有利となります。傾向として、低学年次の英数国・・・等の、基礎学力をしっかり身に付けた人ほど、採用試験（面接試験、学力試験、SPI、適正検査、TOEIC、作文・・・等々があります）で良い結果が得られています。もちろん課外活動などで心身を鍛え、コミュニケーション力も身に付ける必要もあります。本校で学生一人当たりの企業求人数が一番多いのは機関コースですが、実力がなければ希望する進路には進めません。学生にとって必要なことは、低学年時から十分将来に備え、学力のみならず社会人に要求されるバランスが取れた人物になることです。

電子機械工学科の就職について



電子機械工学科長

古森 郁尊

本学科では、少しでも人に役立つものづくりに関心を持ち、日常を支えることに誇りを持てる人材の育成を目的として、機械・電気電子・計測制御・情報に関連する分野を学びます。必要とされる分野は、機械系・電気電子・電機・電力、自動車、交通機械、通信・ビル建設・管理・空調・昇降機、食品・薬品・プラント制御など広範囲に及んでいます。以上の分野に加え、今年度は、航空宇宙を支える部品産業分野からの求人も頂くことができ、内定を勝ち取った学生も出ました。

今年度も9月までに約6割の学生が進路の目途が立ち、11月中には全ての学生が内定を手にする予定です。また、県内へ残る学生の割合は数年前に比べ増加傾向にありますが、昨年に比べ減少しました。これは、求人倍率が実質30倍を超えることが影響していると考えられます。

次に、進学者は、専攻科へ3名、豊橋・長岡技術科学大学へそれぞれ1名ずつの合計5名でした。今は学生にとって圧倒的に有利な状況での就職活動ですが、大学への進学を目指す学生が増えてくれればと思います。

学生諸君、今は君たちにとって圧倒的に有利な就職環境です。しかし、採用試験では基礎学力や説明能力が試され、自分の意見や考えを面接官に伝えられない場合は希望が叶わないことになります。学校での経験を面接で熱く語れるように、学生生活を送ってください。

制御情報工学科の進路について



制御情報工学科長

出江 幸重

平成30年度の制御情報工学科5年生は36名で、そのうち進学が11名、就職が25名です。進学の内訳は豊橋技術科学大学2名、長岡技術科学大学2名、電気通信大学1名、本校専攻科生産システム工学専攻6名です。就職は25名全員の内定を頂いております。就職については、相変わらず好調を維持しており、製造業、インフラ、情報通信等の幅広い分野に決定しています。職種についても開発・設計、生産技術、保守点検、サービス等学生それぞれの希望の職種に就くことができています。学生にとっては売り手市場ですが、全員が第一希望の企業に合格するわけではありません。2社目、3社目と受験する学生もいます。そのような学生はやはり準備不足が一番の原因です。自分のやりたいことや適性は何か、どのような業種・分野が自分に合っているのか早いうちから考え始めることが大切です。また、社会人としての常識は必須です。特に報告・連絡・相談は大切で、すんなりと内定をいただける学生は、きちんと報告してくれます。なかなか連絡がつかない、相談や報告に來ない学生は第一希望で決まらない場合が多いように感じます。

在校生のみなさんは、学校の勉強を頑張るとともに将来についても考える時間を作ってみてください。保護者や先生・先輩と話す機会を持つのも良いと思います。

専攻科の就職状況



専攻科長

宮崎 孝

今年の専攻科の進路ですが、売り手市場であることが後押ししてか、採用試験の自由応募や大学院の学力試験に挑戦する学生が多くいました。3名の学生が就職で自由応募に、2名の学生が進学で学力試験に臨み、全体の半数が挑戦したことになります。残念ながら合格率は半分を切っていますが、専攻科からは採用実績の無かった企業に合格した学生もいます。結果を恐れていては、本当に入りたいところに合格することはできません。不合格の場合でも推薦応募に切り換えることは出来ます。推薦応募については今年度も好調で、一名を除いて一回目で第一希望の企業から内定をもらっています。

今年のもう一つの特徴は、大学院進学者が3名（予定者も含む）いることです。最近では、進学者0名が続いていましたが、今後より高度で専門的な職を目指して進学も選択してくれることを希望します。

最後にインターンシップですが、専攻科からは4社へ4名が参加しました。専攻科は2週間以上の期間を基本としており、より本格的に就業体験ができます。今年度も結果的に、インターンシップ先が就職先となった学生もいますので、この機会を是非活かして欲しいと思います。



平成30年3月及び平成30年9月卒業生進路先一覧（順不同） 平成30年9月30日現在

商船学科

●就職先 日本海洋事業（株）、旭タンカー（株）、田洲海運（株）、上野トランステック（株）、三洋海事（株）、西部タンカー（株）、中央海運（株）、（株）フェリーさんくらわあ、トランスオーシャン（株）、東京汽船（株）、ファーストマリナーサービス（株）、昭陽汽船（株）、コスモ海運（株）、（株）帝国機械製作所、ジャパンマリタイムユナイテッド（株）、（株）フェリーさんくらわあ、商船三井オーシャンエキスパート（株）、川崎汽船（株）、ダイキン工業（株）、（株）旭メンテックス、佐渡汽船シブマネージメント（株）、商船三井フェリー（株）、昭陽汽船（株）、イノガストランスポート（株）、伊勢湾マリナーサービス（株）、出光興産（株）、（株）ウィングマリタイムサービス、（株）マキタ、日本郵船（株）、鹿児島船舶（株）

●進学先 神戸大学海事科学部、東京海洋大学海洋工学部

電子機械工学科

●就職先 三菱電機ビルテクノサービス（株）、中部電力（株）、（株）NTTフィールドテクノ、ダイキン工業（株）、三重金属工業（株）、パワーサプライテクノロジー（株）、森永乳業（株）、中京工場、コスモ石油（株）、東海旅客鉄道（株）（JR東海）、三菱電機メカトロニクスエンジニアリング（株）、三菱電機システムサービス（株）、廣瀬精工（株）、万里設備（株）、東ソー（株）、総合警備保障会社、田中貴金属グループ、住友電設（株）、パーソルR&D（株）、エムイーシーテクノ（株）、（株）ザイマックスアルファ、ANAベースメンテナンステクノニクス（株）、村田機械（株）、東京ガス（株）、松田工業（株）、松田精工（株）、セントラル硝子（株）、シンフォニアエンジニアリング（株）、（株）丹羽鉄工所、三機工業（株）、小木曽工業（株）、シンフォニアテクノロジ（株）

●進学先 専攻科、東京工業大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、岐阜大学

制御情報工学科

●就職先 （株）NTTネオメイト、日本たばこ産業（株）東海工場、花王（株）、三菱電機ビルテクノサービス（株）、日東電工（株）亀山事業所、（株）ドリーム・アーツ、（株）NTTファシリティーズ関西、美和ロック（株）、中部電力（株）、日本オーチス・エレベーター（株）、ニプロファーマ（株）伊勢工場、ダイキンエアテクノ（株）、日立INSソフトウェア（株）、出光興産（株）、（株）NTTフィールドテクノ、（株）大気社、ソーニーデジタルネットワークアプリケーションズ（株）、旭化成（株）、（株）LIXIL、（株）ニコン、（株）FIXER、富士ゼロックス三重（株）、（株）協和エクシオ、（株）エヌ・ティ・ティエムイー、キクカワエンタープライズ（株）、ダイキン工業（株）、キャンシシステムアンドサポート（株）、三重金属工業（株）、（株）中央エンジニアリング、オムロンフィールドエンジニアリング（株）、パナソニック（株）エコソリューションズ社 津工場、富士電機（株）、（株）メンバーズ、（株）NTTファシリティーズ東海、フジテック（株）

●進学先 専攻科、豊橋技術科学大学

平成30年3月及び平成30年9月専攻科修了生進路先一覧（順不同） 平成30年9月30日現在

海事システム学専攻

●就職先 商船三井フェリー（株）、西部タンカー（株）、商船三井フェリー（株）、（株）新来島ドック

生産システム工学専攻

●就職先 （株）エヌエフ回路設計ブロック、（株）メンバーズ、パワーサプライテクノロジー（株）、森永乳業（株）中京工場、（株）エヌ・ティ・ティエムイー、テルモ（株）、ヤフー（株）

皇太子殿下行啓について

商船学科航海コース5年

高田 尚志

8月1日に皇太子殿下が本校にお越しになりました。マルチメディア室にて、商船学科の紹介・説明を、パネルとスライドで8〜9分間、質疑応答を1〜2分間、計10分間行いました。皇太子殿下の他にも、宮内庁の方々、県知事、報道陣の方々など60名以上が見守る中、無事10分間を終える事が出来ました。殿下は、本内容や、練習船鳥羽丸、帆船日本丸での実習、入学以来一番印象に残っている事等の質問を、10個程お聞きくださり、最後にこれからの励ましの御言葉を賜りました。

今回、皇太子殿下行啓が決定し、商船学科の紹介・説明をさせていただく事となり、当初は不安と緊張で胸がいっぱいでしたが、本番ではそれすらも楽しむことが出来、私にとって、非常に貴重で充実した10分間でした。今後二度とないような経験をさせていただき、自信が付きましたし、この経験をこれからの人生に活かすことが出来ればと思っております。



皇太子殿下の前でのロボット操縦

電子機械工学科4年

山本 汰

私はロボコン部キャプテンとして、皇太子殿下の前でロボットを操縦するという重大な役割を任せ、初めて聞いた時、驚いて思わず聞き返してしまいました。動かすロボットは昨年度の全国ロボットコンテストに出場したロボットで、相手のロボットに付いた風船をやすりのついた刀で割る競技でした。皇太子殿下が来校されるまで何度も練習し、当日、警備が強化され、報道関係者が増えるに従い、大勢の関係者が来られて大勢の人によってこのイベントが支えていること実感しました。また、全国大会の時より緊張しました。そして、皇太子殿下の前でロボコンの説明とロボット操縦を行い、無事に全ての風船を割ることが出来ると、皇太子殿下から拍手を頂いて一安心しました。その後、皇太子殿下がお帰りになる際、私の前で立ち止まれ「ロボットの操縦は難しいですか？」や「何が一番苦労しましたか？」などのお言葉を頂きました。突然の問い掛けだったのでとても緊張しましたが、しっかりと答えることが出来てよかったです。そして最後に「これからも頑張ってください」と励みにお言葉を頂き、これからもロボコンを頑張ろうと思いい、とても貴重な経験になりました。



Imagine Cup2018世界大会に参加

制御情報工学科5年

世古口 英大



私は、2018年7月にアメリカ、シアトルのMicrosoft本社で開催されたImagine Cup2018世界大会に出場しました。この大会は、Microsoftが主催する国際競争力のあるIT人材育成を目的とする世界最大の学生向けのITコンテストです。2018年の4月に東京で日本予選が行われ、上位3チームが世界大会に出場することができました。

世界大会は、決勝戦までに2回予選があり、1次予選は48チームから18チームまで絞られ、2次予選は18チームから3チームまで絞られ決勝戦という流れでした。

私たちは、地元漁師さんと連携し、「EFFECT」という、機械学習やIoTといった技術を用いて魚の養殖を自動化するシステムを開発し発表しました。EFFECTは、漁師さんの知恵を反映させて開発したAIに基づいて、魚の成長と風味を調整することが可能です。しかし、私たちは、海外の審査員の方に、日本の養殖業だからこそできる、風味の調整や出荷日程の調整機能などの日本の養殖業の重要性を伝えることができず、初戦で敗退してしまいました。その後、敗者復活戦もありましたが、残念ながら予選通過できませんでした。また、世界大会では、やはり言葉の壁を感じてしまいました。思っていることを英語で伝えるのが難しい場面もありました。

今回の大会で、国内外でのプレゼンテーションやデモンストレーションを行ったり、海外の学生とも意見交換することができ、良い経験になりました。



皇太子殿下行啓

Imagine Cup 世界大会

学生の活躍

平成29年度起業家甲子園
全国大会に参加

生産システム工学専攻1年

服部 魁人

私は、2018年3月に平成29年度起業家甲子園全国大会に参加しました。これは起業家を目指す大学、高専、高校生が全国から集まりそれぞれのサービスを発表するコンテストで、国立研究開発法人情報通信研究機構NICTが主催しています。

私たちは地元漁師さんと連携し、「養殖マイスター」と名付けた、機械学習やIoTを使って海面養殖魚の給餌・管理を自動化するシステムを開発し発表しました。

このコンテストの1番の目玉は、シリコンバレーブートキャンプとして米シリコンバレーでの1週間研修に参加できたことです。現地で活躍されている起業家やエンジニアからのメンタリングがあり、自分達のプロジェクトがどう見えるのか、何が必要とされるのかを学びました。

これまで参加してきたプログラミングコンテストとは違い、売れるのか、ということが重要となっていたため慣れないことも多く大変でしたが、私が社会人になる上で大切なことを学んだ貴重な体験でした。



第53回全国高等専門学校 体育大会陸上競技について

電子機械工学科2年

畠田 寛大

今回私は全国高専大会で、3位という成績を残すことができ、うれしかったですが優勝できず悔しい気持ちもありました。

私は去年、全国高専大会に出ることができず、悔しい思いをしました。それから今年の全国高専の出場を目標に頑張り、今年出場することができました。

この大会では、自己ベストである201cmを目標にしていたが、結果は195cmでした。自己ベストを出せれば優勝



できた大会だったのですが、悔しかったですし、大事なところでベストを出せない自分の弱さも改めてわかりました。3位という結果にも、195cmという記録にも満足できなかったのだから、その記録を超え優勝できるように、これから頑張っていきたいと思います。

平成30年度全国高校総体 少林寺拳法競技大会について

電子機械工学科2年

伊舎堂 永

私たち少林寺拳法部は8月3日～5日に愛知県西尾市で開催された全国高校総体に出場しました。

本校からは組演武1組(2人)、単独演武1人、団体演武1組(6人)が出場し、私は組演武と団体演武に出場しました。

会場では、全国の代表選手達がそれぞれ演武を披露し得点を競い合いました。応援も気合も技のキレも今までに見たことのないようなもので私は雰囲気にも呑まれました。単独演武は準決勝に進みました。しかし私の出場した団体演武、組演武の結果は予選敗退でした。他の都道府県代表選手によるレベルの高い演武は私達を触発させるものでした。今回の悔しさをバネにしながら、今まで以上に自分を奮い立たせ、これからの鍛錬に取り組みたいです。また、今大会に出場

できたのも先生方、親、仲間のおかげだと思っています。支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを忘れず、これからも一生懸命頑張っていきます。



第53回全国高等専門学校 体育大会柔道競技について

電子機械工学科3年

宮田 ゆう

全国高専大会の柔道競技が、8月25日から2日間、大分県立総合体育館で行われました。鳥羽商船高専柔道部は、予選を通過した女子部員3人が出場しました。

初日は翌日の試合に備えて、技の確認や調整練習を行いました。その後、コートと共に男子団体試合を観戦し、どのように戦えば有利に立ち回れるのかということや、不利な状況からの逆転方法などについて教えてもらいながら、試合のイメージを作っていました。

2日目は女子個人試合が行われました。鳥羽商船高専柔道部の3人は、日頃の練習成果を発揮して試合に臨むことができました。その結果、私は残念ながら1回戦で敗れましたが、1人は軽量級準優勝という成績を収めることが出来ました。

高専大会への参加は、私に努力の大切さを教えてくれました。また、他高専の柔道部員との交流を持つことも出来、私にとつて非常に有意義なものでした。これからは来年度の一勝に向けて努力していこうと思います。



ロボットコンテストを通して

電子機械工学科2年

守屋 和輝

今年のロボコンの競技テーマは「Bottle-Flip Cafe」で、手動ロボットと自動ロボットの二台のロボットを使ってペットボトルをフィールド上のテーブルに立たせるというものでした。私はロボコン歴一年という立場で、今年のロボコンに手動ロボットの操縦者として出場させて頂きました。表舞台に立つてロボコンに参加したのは今回初めての経験で、責任を背負って試合に出場するということは、想像以上に緊張しました。結果、今年のロボコンでは予選リーグで敗退し、しかも賞を一つも受賞できなかったというとても悔しい結果に終わりましたが、他校の技術やアイデアから学ぶことは非常に多く、次年度こそはチームの目的を達成できる様という決意をする燃料となりました。



今年のロボコンを通じて、私達のチームは教員の方々や様々な企業様の支援によってロボコンに出場できたという事を自覚し、様々な支援に感謝しつつ、次年度はチームで協力しあい、何かの賞をいただける様に頑張ります。

プログラミングコンテストを通して

制御情報工学科2年

大田 真裕

私は、プログラミングコンテストを通じて、メンバーに対する憧れがとてもしっかりしました。作業に行き詰まった時、質問したらすぐに解決してしまったり、システムの内容を理解し、それを相手に明確に伝えることができる先輩。コンテスト当日、システムについて説明する場で、困惑する私を他所からコンテスト当日まで、メンバーに沢山背中を押されました。最優秀賞に選ばれ、壇上に上がった時の喜びは、このメンバーでないと絶対に味わえないと思います。壇上で見た先輩の背中では、とてもかっこよくて忘れることができせん。知識不足の私を、たくさん助けてくれた先輩、支えてくれた先輩、そして、機会を与えてくださった教員に感謝の気持ちでいっぱいです。



ソーラー&人力ボート全日本選手権大会2018に参加して

商船学科航海コース5年

岡本 直樹

8月24日から26日に愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターで開催された、ソーラー&人力ボート全日本選手権の人力ボート部門に私と4年生3人で参加しました。

この大会は人力またはソーラーパワーを用いて推進する手作りボートのレースで、毎年夏に1回日本ソーラー&人力ボート協会の主催で大会が開催されています。大会の種目は、短距離スピードレース・1時間耐久レース等があり、ボートのスピードだけでなく、ボート自体の耐久性・操縦性などが求められます。このボートレースに本校では、2007年から商船学科の鎌田先生とその卒業研究学生達を中心としたチームで12年連続の出場となり駆動系や舵などを改良した「カマテック18号」で挑戦しました。

レース当日は台風後で風が強いものの、暑い晴天となり、トラブルも無く全レース無事完走することができました。レースの結果は「学生の部総合優勝」と素晴らしい結果を達成することができました。ただ、本校の過去の最高速度記録を更新できなかったのが、心残りでした。

今後、高専生らしいアイデアと創造力で新たな記録へのチャレンジを期待していききたいと思います。



サッカー部 部活紹介

商船学科機関コース3年

下野 稜馬

サッカー部は現在、男子31名、マネージャー4名の合計35名で活動しています。練習は週に6回、平日は16時から18時頃まで、グラウンドで行っています。部活の雰囲気は明るく元気でみんな仲が良く、かき氷大会や新入生歓迎会などのイベントも行っています。

高専に入学してからサッカーを始めましたが、部員も多いですが、全国高専大会出場を目指し日々頑張っています。毎年、高校の大会である選手権や高校総体の予選にも参加してチーム強化に努めています。先日あった選手権ではチームの力が発揮され一回戦を突破しました。二回戦で強豪に敗れてしまい、これで、3年生は高校の大会は引退となりました。結果は残念でしたが、この選手権で味わった悔しさをバネに、来年の高専大会へ向けてこれからも練習していきます。



新学科「情報機械システム工学科」の新設について

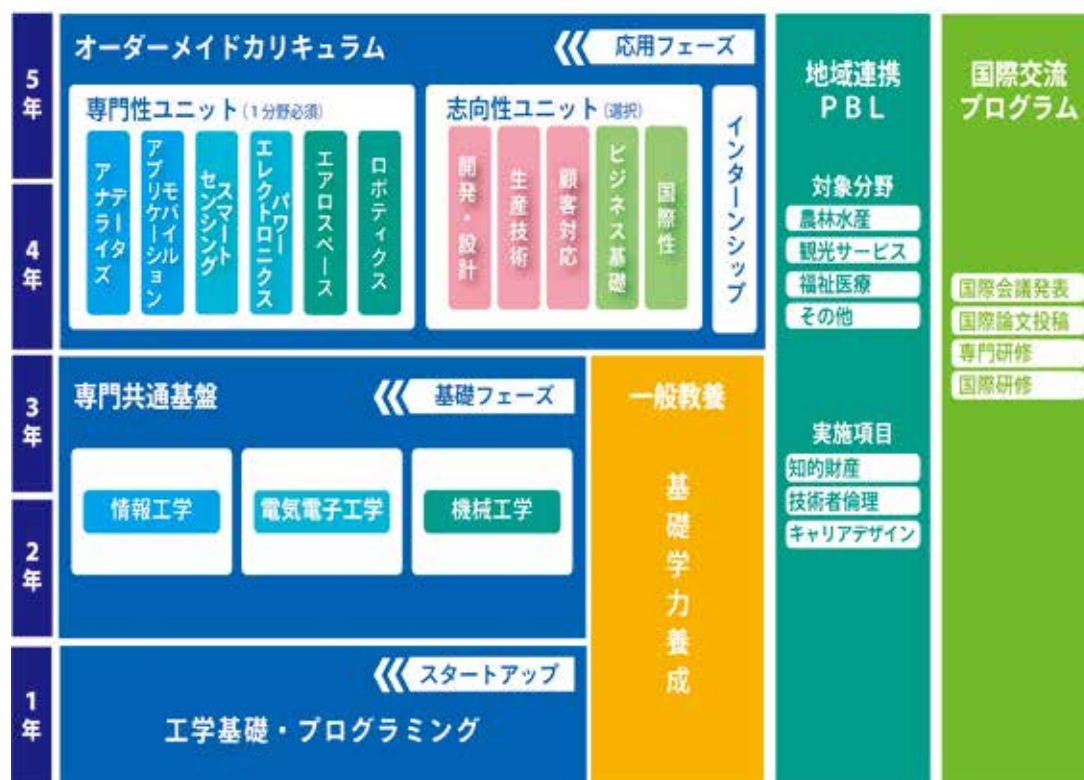
平成31年4月に現行の電子機械工学科・制御情報工学科を統合し「情報機械システム工学科」を開設いたします。

新学科を立ち上げる目的や育成する人材像を簡単にまとめると以下の通りです。

- ① 地域社会の発展に寄与できるシステム提案・開発が可能な技術者を養成する。
- ② プログラミングを通じて論理的思考能力を育成し、情報工学、機械工学、電気電子工学の基礎を修得する。
- ③ 三重県や伊勢志摩地域の産業支援、地域連携を重視し、PBL (Project Based Learning) を通じたグループワークにより地元の産業振興に貢献できる人材育成を進める。
- ④ 卒業後は地元に関連する産業を支える人材となる。

これらを実現するために、オーダーメイド型のカリキュラムを提供します。その最大の特徴は学生自らの個性・特性に合わせた専門性ユニット・志向性ユニットの選択にあります。

情報機械システム工学科 カリキュラム



専門性ユニット

技術者としての専門分野の学習

データアナライズ

ビックデータ解析、人工知能による認識処理などを実装できる技術者を育成します。

モバイルアプリケーション

スマートフォンやタブレット端末による各種アプリケーションを開発できる技術者を育成します。

スマートセンシング

身の回りにある情報を定量的に計測し、分析・可視化を行う技術者を育成します。

パワーエレクトロニクス

住宅や事務所向けの電力供給・管理システムの整備、保守を担う技術者を育成します。

エアロスペース

航空宇宙産業の製造現場で活躍するため、生産現場の管理運営能力を持つ技術者を育成します。

ロボティクス

生産を担うロボットの開発、設計、製作、制御、整備ができる技術者を育成します。

専門性ユニットとしては、将来就く仕事における技術的分野であり、開設当初は以下の6つを用意しますが、時代や地域の要請に合わせて変更していきます。

志向性ユニット

職種選択のための学習

開発・設計

開発・設計業務に携わるために必要な高度な理数系の知識を修得します。

生産技術

生産現場の取りまとめとして幅広く技術を理解し、各部門の要望をまとめる調整能力を培います。

顧客対応

電気機器やビルシステムの導入・保守運用をするための顧客との交渉力を養います。

ビジネス基礎

ビジネス的な視点を持つ技術者として活躍するために、経営・管理などを学びます。

国際性

グローバルな視野を持ち、英語を中心とした語学力の向上を進めます。

また、志向性ユニットは、将来就く職業における職種の基盤を身に付けるものです。技術者というと、開発・設計職が多いと思われるのですが、生産現場の管理や顧客対応など様々な職種があります。これらに合わせた知識・技術を修得可能になります。

入学後は、スタートアップとして工学基礎やプログラミングを学び、高専で学ぶということ、将来像を理解してもらいます。2・3年生では、新学科の基盤となる情報工学、機械工学、電気電子工学の基礎を学び、分野横断的な知識を備えた技術者となる基盤を培います。4・5年生では、先ほども説明した専門性ユニット・志向性ユニットの選択により、自ら進むべき道を明確にしていきます。

また、新学科では1年次から地域連携型のPBLを実施し、5年生から1年生までの学年縦断型のチーム編成により、地域課題の解決に取り組めます。PBLの中で上級生は下級生を指導することにより、自らの技術をさらに高め、逆に下級生は将来の立場を意識して学修に取り組むことができます。

これまで、電子機械工学科・制御情報工学科は、比率は違えど電気電子、機械、情報の学習に取り組んできました。入学を考える中学生や親御さん、先生たちからは、それぞれの学科の違いが分かりづらい、どちらの学科に向いているのか分からない、といった意見をいただけてきました。また、AIやIoTを中心とする第4次産業革命が進む中、両学科の学生が共通的に学ぶべきことが増大しています。これらを総合的に判断すると、今回の新学科立ち上げは必須の流れであり、これまでは取り組めなかった、複合・融合分野への挑戦が可能になると考えています。

すでに入学している学生のみならずにとっても、新学科の開設は大いに影響のあることです。工業系の皆さんは後期からPBLで1年生の指導にあたってもらいます。商船学科の皆さんも、海洋系のプロジェクトと一緒に勉強してもらう可能性も十分にあります。

新生入生はもちろん、在校生の皆さん、卒業生、近隣の方々、教職員の皆で鳥羽商船高等専門学校の発展に一致団結して取り組んでいきましょう。

国際交流

国際ボランティアを終えて

商船学科機関コース3年

後藤 徳子

私はトビタテ留学JAPANというの奨学金制度を利用し、project abroadというエージェントを通して2週間タイへボランティア活動にきました。

このプロジェクトでは海洋環境保護について学ぶことが主な活動でした。海洋環境について知るためにダイビングの資格を取得しました。また、私達の生活が海洋に及ぼしている害を知るために、プーケットマリンバイオリジカルセンターへ行きました。この施設では海洋生物に関する調査や保護を行っています。私が見せて頂いたところには多くのウミガメが保護、飼育されていました。甲羅が潰れてしまっている、脚が3本しかない、甲羅に穴が空いてしまったカメなどを目の当たりにしました。少しでも人以外の生物が過ごしやすいと思える環境にするためにビーチ清掃やマングローブが密集しているところから広いところへ植え替える活動を行いました。このプロジ



エクトにはイタリア、フランス、中国、韓国、香港など世界各国から人々が集まり活動していました。活動中は英語が主でしたが、街中に出ると英語はほとんど通じませんでした。私はタイ語は全く話せませんでした。タイ人はとてもフレンドリーで、臆することなく買い物や食事をすることができました。2週間という短い期間でしたが、自分の価値観が大きく変わりました。この経験を糧として、夢に向かって勉学に励んでいきたいです。

SMA鳥羽丸トレーニングに参加して

商船学科機関コース3年

篠原 幸亮

私は夏休みにSMA鳥羽丸トレーニングに参加しました。このプログラムはシンガポールの学生たちと前半は鳥羽丸実習や伊勢、鳥羽へ観光に行ったり、後半は名古屋科学館や水族館などの観光をしました。そのなかでも特に鳥羽丸実習をメインとしたものです。シンガポール学生も海事系の学科で、エンジンコースとビジネスコースの学生が鳥羽に来ました。私はエンジンコースなのでエンジンの学生さんに混じって実習しましたが、やはり英語ばかりだと難しいです。私は特に英語のリスニングが苦手で結構苦労することもありました。積極的に話しかければちゃんと答えてくれるし、向こうからも話しかけてくれて、いろんなことを話すことができました。外国人とのコミュニケーションは英語が大切ですが、積極性も大切だと思いました。このプログラムは海外にいったことない人でも外国人に関わるいい機会だと思われ、たくさん友達ができます。外国人と話すことは実際にどんな感じなのか体験できてとてもよかったです。是非来年も参加したいと思いました。



鳥羽丸の和歌山県日高港初入港について

鳥羽丸船長 齊心 俊憲

鳥羽丸は、2018年5月7日(月)10日(木)の商船学科航海コース5年生の実習航海において、和歌山県日高港に初入港いたしました。これは、鳥羽商船高専と和歌山工業高専間における包括連携事業の皮切りとして、鳥羽丸が向かったものです。

5月7日関係者に見送られ鳥羽池の浦を出港、当日太平洋は海上荒天でしたが、学生主体で航海当直を続け、翌朝予定通り日高港に入港いたしました。

入港後には「歓迎セレモニー」が行われ、地元幼稚園児や小中学生及び関係者を鳥羽丸にお招きして、船内一般公開及び体験航海を行いました。

午後から学生は、和歌山工業高専の学
校見学や学生交流会
を行いました。



この航海で鳥羽丸は「御坊市等の防災担当者との災害時相互協力の意見交換」、「2件の受託研究(和歌山工業高専)」を実施いたしました。

復路は強風により、日高港出港が遅れたものの、順調な航海を続け、5月10日関係者の出迎えを受け、無事鳥羽池の浦に帰港いたしました。

この実習航海で、学生は貴重な経験を得られたと思います。

リーダーズトレーニング研修に参加して

制御情報工学科5年・学生会長 中村 知華

私は8月30日と31日の二日間、学生会長としてリーダーズトレーニングに参加しました。リーダーズトレーニングは、リーダーシップの向上(リーダーの育成)を目的とし、行われている学校行事のひとつです。

初日は「リーダーとしてのメンタルトレーニング」の研修を行いました。その後、部活動代表、学生会の低学年の役員に部費配分について詳しく学んでもらうため、「学生会則・学生会諸規則に基づく部活動の事務マネジメント」の研修を行いました。2日目は犬山城へ行き歴史について学び、学生間の交流も深めました。

今回のリーダーズトレーニングでは、他の人と物事の見方、考え方の違いがあることを改めて学びました。沢山の人の意見を取り入れていくことは、リーダーとして大切なことだと思います。このような貴重な体験ができる行事は今後も続けてほしいと思います。この経験を、今後の学生会活動で活かしていきたいです。



工場見学を終えて

制御情報工学科4年 鳥山 渉

私たち制御情報工学科四年生は10月11日から10月13日にかけて、工場見学に参加しました。

1日目は「UJ Japan 株式会社」、「キクカワエンタープライズ株式会社」を見学しました。UJ Japanでは、私たちが普段使用する電気機器の電磁波への耐性を計測する建物を見学し、キクカワエンタープライズでは、木材加工機械の製造工場を見学しました。

2日目は「Yahoo 株式会社」、「ネオジャパン株式会社」を見学しました。どちらの企業もそれぞれウェブページやソフトウェア等プログラミンの仕事を主としており、プログラマーの方々が働いている様子を見学することができました。

3日目は「ヤクルト富士裾野工場」を見学しました。私たちが普段飲用しているヤクルト社の製品が作られる工程を見学しました。

工場見学を終えて、様々な分野で働いている方々の様子を見学し大きな刺激を受けました。この経験をこれから就職活動に活かして行きたいと思っています。



フィールドワークに参加して

電子機械工学科2年 北村 優成

私たちはフィールドワークで、松阪クラスターと味の素の工場へ行きました。

松阪クラスターは、私が中学生の時に松阪に飛行機の部品を作る工場ができると聞いて将来はそこへ就職したいと思っていたので、見学できてとてもよかったです。工場で作っていたのは主翼の部品で、大きな金属の塊が機械によりプログラム通りの形に削り出されていました。削り出すまでには短くても10時間、長いものでは1日かかるとのことでした。工場ではたくさんの方が一つの作業をしていると思っていましたが、実際は一人でいくつかの作業を担当していました。また多くの作業をロボットが担当していて、部品の運搬も無人のロボットが行っていることに驚きました。

味の素では本だしの製造過程を見学しました。工場の入口は2重構造で、1つ目の扉を閉めないと2つ目の扉を開けられないようになっていて衛生面も考慮されていました。ほとんどの作業をロボットが行っていました。工場の敷地面積はとても広く、従業員の方は自転車で移動していました。

見学前は工場でどのようなものを作っているのか、どのようなことをしているのか分からなかったけど、今回のフィールドワークで具体的な作業などを見ることができ、とてもいい経験となりました。



和歌山への航海

リーダーズトレーニング

工場見学

フィールドワーク

海学祭を開催して

電子機械工学科 4 年・海学祭実行委員長 飯田 慎也

平成最後の海学祭を 10 月 20 日、21 日に開催しました。

昨年は台風の影響で全ての催しが中止になったため、天候が気になり何日も前から眠れませんでした。今回は、日焼けしてしまうほどの晴天に恵まれた海学祭となりました。海学祭開催に至るまで、スポンサー、同窓会、教職員、学生、学生会役員など多くの方にご協力頂いたおかげで、無事に学祭を終えることができたと思います。海学祭実行委員を代表して感謝申し上げます。

今年の海学祭は、平成最後ということで例年より一層準備に力をいれました。広報活動として、海学祭のポスターの掲示を伊勢市・鳥羽市の教育委員会に依頼し、市内の小中学校に貼ってもらいました。このおかげもあり、沢山の小中学生が来場してくれました。また、ダンスステージを音響設備抜群のライブステージに移動させたこと、模擬店クリンタイムの導入したことなど、新たなことにも取り組みました。その他にも、教職員や学生バンドのライブがあり、学校全体の盛り上がりを感じることができました。

今年度は 2、3 年生が各部署のリーダーを担当しました。この経験を生かして、パワーアップした第 54 回海学祭を開催できるよう、これから準備していきます。



公開講座・出前授業実施



本校では今年度も、小中学生を中心に学びの機会を提供すること・鳥羽商船の魅力伝えることを目的として、公開講座「サイテクランド 2018」及び「小学生のためのバレーボール教室」を実施しました。台風の影響により中止または延期となった講座もありましたが、今年度は昨年度よりも講座数を増やし様々な分野で実施し、伊勢・鳥羽・志摩地区を中心に約 200 名（申込み約 300 名）の小中学生に参加いただき、各講座の受講者は講師の説明を熱心に聞き、意欲的に取り組んでいました。

また、出前授業では依頼があった伊勢・鳥羽市内の小中学校等を訪問し、普段経験することができない授業を体験していただきました。このほかに、鈴鹿市内の中学校 2 校からの依頼で「商船概論」と「商船と船員について」の授業を行い、進路として商船学科・船に関する仕事を知っていただく良い機会となりました。

公開講座一覧 サイテクランド in 鳥羽商船高専

講座名称	開催日時
船員の仕事 in 鳥羽商船（鳥羽クルーズ）	台風接近により中止（7 月 28 日（土））
ソーラーで動くおもちゃ工作	8 月 8 日（水）
レーザー加工機を用いてオリジナルグッズを作ろう	8 月 16 日（木）
IchigoJam でマイコンプログラミング（U16 プログラミングコンテスト三重大会事前講習会）	8 月 19 日（日） 8 月 20 日（月）
おもしろ理科実験	8 月 20 日（月）
ロボットを制御する電気回路を作ろう	8 月 22 日（水）
3D プリンタでオリジナルグッズを作ってみよう	8 月 24 日（金）
簡易ウェブマシンを作って波の性質をみてみよう	8 月 28 日（火）
クリップモーターで EV（電気自動車）を走らせよう	8 月 28 日（火）
振動型マイクロ発電機を作って LED を光らせよう	8 月 29 日（水）
電気を測ってオームの法則を確認しよう	8 月 29 日（水）
小学生のためのバレーボール教室	10 月 6 日（土）

出前授業

講座名称	開催日時
商船概論	6 月 12 日（火）
オリジナルうちわ作り	8 月 10 日（金）
商船と船員について	10 月 11 日（木）
LEGO 初級	11 月 3 日（土・祝）
ロボット教室	11 月 3 日（土・祝）
オリジナル下敷き作り	11 月 7 日（水）
LEGO 初級	1 月 27 日（日）※予定



編集後記

学校だよりの第 89 号では、進路状況、学生の課外活動での活躍、新学科の設立などの記事を掲載しました。執筆してくださった皆さんに感謝いたします。

学生の活躍は目覚ましく、記事の選択に迷った程でした。新学科の設立は、直接には関係ない方が多いとは思いますが、周りの方への宣伝をお願いいたします。（宮崎記）

